

旭

印刷を支え加工を活かす

旭紙工で働いてきた中で、最も印象的だった出来事は何ですか。

旭紙工はタイ人の技能実習生を受け入れていて、今いる子たちは13期生です。その1期生を迎えた当時が最も印象深く残っています。普段は外国の方と関わる機会がないので、最初は言葉や文化の違いに苦労しました。作業に必要な言葉は、タイ語と日本語の両方を単語帳に書いて覚えてもらうなど、コミュニケーションはととても大変でした。ただ、それ以上に彼ら、彼女らと過ごすのは楽しく、会社でバーベキューをしたり、遊園地や京都に連れて行ったりと、たくさん思い出があります。寮で



戸田千賀

瓜破工場 中綴じ部門

戸田千賀さんは、2000年(平成12年)3月に旭紙工株式会社に入社しました。現在は瓜破工場の中綴じ部門で、主に中綴じの検品と貼り込みの業務に従事しています。前職は自動車メーカーでオートバイ用品の出入庫と梱包の仕事をしていたが、会社の移転をきっかけに転職。それ以降は旭紙工で働き続けています。ペーラン社員である戸田さんに、仕事や会社への思い、印象に残っている思い出、今後の目標などについて伺いました。



入社して20年以上になります
が、長く勤められている理由を教えてください。

社長をはじめとした周りの方からの支えがあるから、というのが大きな理由です。私は小学校1年生の頃から、腎臓に持病を抱えています。学生時代は入退院を繰り返し、社会人になってからも、検査や治療のために毎月通院しています。塩分や水分の量を調整するなど気を使っていますが、どれだけ体調管理をしていても急に症状が悪くなるのです。体調不良でお休みをいただくことも多い状況で、残業も医師から止められています。

入社してすぐの頃は、周囲への申し訳なさから「会社を辞めたほうがいいのではないか」と悩むこともありました。しかし、そんな時に社長から「無理をしなくていい」と声をかけていただいたのです。「会社ができることにはとことん付き合うから、病気を理由に辞めないでほしい」という言葉が、今でも忘れられません。

上司や同僚にも、たくさん助けてもらっています。20年以上も働いているのは、こうして周りの方に支えていただいているおかげですね。

最後に、今後の目標を教えてください。

中綴じ機械のセットも自分でできるようにするのが目標です。何度か使い方を教えてもらいましたが、時間が空くと忘れてしまい、完全に覚えてきれていません。貼り込みは機械のセットから検品まで一人でこなせるようになったため、中綴じも同様に身に付けたいと思っています。

持病を抱えながらも、周りの支えを受けて長く活躍してきた戸田さん。その真面目な人柄を活かし、今後も旭紙工の成長を支えていくことでしよう。

これまで仕事で失敗した経験があれば、教えてください。

あまり致命的な失敗をした経験はないのですが、強いて言えば入社してすぐの頃にやった貼り込みの仕事で、今も記憶しているミスがあります。積み込みをしていて、いくつか



本場のタイ料理を作ってもらって、そのお返しにお寿司やお好み焼きなど日本の料理をごちそうしたこともありましたが、でも、当時は最長3年で帰国しなければならなかったのです。お別れの瞬間は、みんな号泣。今も何人かとはFacebookで繋がっています。いつか、また再会できたら嬉しく思います。



企業情報

- ◆創立年：1983年1月
- ※創業：1963年
- ◆年商：15億円
- ◆従業員数：200人

※2018年12月実績

設備紹介

— 東京出版機械 —



私が紹介します！

工場本部 瓜破工場
中綴じ部門 副工場長
やまの ひろゆき
山野 博之さん

瓜破工場で24年以上の歴史を持つ、東京出版機械製造の貼り込み機。B4～A7サイズまで幅広く様々な紙を貼り付けできるそうです。今回は山野さんに機能や注意点、貼り付け機と苦楽をともにしたエピソードを伺いました。

大きなものから
小さなものまで
貼り付ける！

Q.どのような機械なのでしょう？

貼り込み機という、文字通り、糊を塗って紙と紙をくっつける機械です。この機械は2台ありますが、ほとんどが次工程に送るための貼り込みや一部の作業に使う特殊な場面で活躍します。紙で製本するだけであれば、貼り込みはないので、常に稼働している訳ではありません。冊子などに封筒や葉書を貼ったり、ペラを貼り込んだり、紙を一枚貼り込むときに使用します。規定のサイズはありますが、最大でB4くらいのおおきさ、最小でA6サイズほどですが、おそらくA7までは可能であると思います。

また、基本は通常糊というボンドのようなものを使っていますが、他にも剥離糊（はくりのり）を使うこともあります。これは本を貼り付ける役割もありますが、剥がすこともできる粘着力が弱い糊です。剥離糊は主に封筒や剥がしてそのまま郵便ポストにいくようなものと葉書に使用します。製品の用途によって糊も使い分けをしているのです。

長く会社で
活躍してきた
貼り込み機

免許は
不要！

紙の癖と
巻き込みに
注意！

目指せ
高品質！

Q.現在の機械はいつ導入されたものですか？

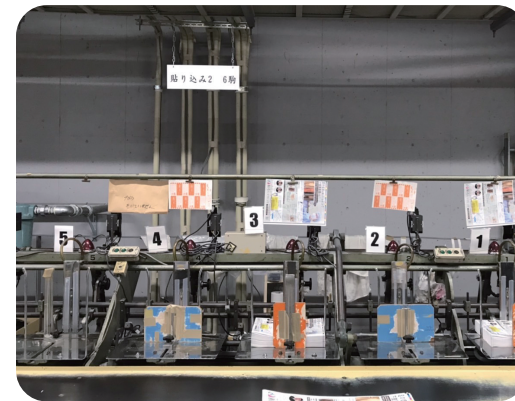
私が入社した頃の24年前くらいにはありました。そこから交換もなく、ずっと同じ機械で、長く使用されてきています。私は、6～7年前から引き継いで使用してきました。

Q.使用するには資格や免許等は必要でしょうか？

必要ありません。どなたでも使うことができます。意外と使用方法は簡単で、操作はシンプルです。この機械を使用できるのは瓜破工場という3人です。3～4日あれば使用できるようになると思います。当時は貼り込み機の部門ではなく、中綴じ部門で担当しており、そこで機械の使用法を覚えてきました。

Q.使用上での注意点はどこでしょうか。

色々な紙の癖を直して調整する必要があるときがあります。結束バンドを掛けているので、上下に型がつき丸まっているような状態のものは、しっかりと歪みをとります。そのままだと紙を巻き込んでしまっ、機械が止まってしまうことにもなりかねません。このため、厚みのある紙よりも薄い紙の方が、対処が難しいと感じています。また、昔の機械なので稼働部分やアーム部分がカバーなしで動いている部分があります。基本的には巻き込むことはないと思いますが、安全には細心の注意を払って怪我をしないように作業しています。



Q.今後の目標

高い品質の製品をいかに効率良く、次工程に送れるかがこの機械でのポイントとなってきます。しっかり綺麗に真っ直ぐに貼り合わせ、どれだけ丁寧にセッティングをするかが大切です。また、糊を使っているため、あつちこつちに糊が飛び散ることもあります。飛び散り方によっては、糊が邪魔を

してすぐに貼れないということもあるのです。機械の中で飛び散ったり、ワイヤーに付着したりすると、商品にも糊がくっついてしまいます。今後は、これらの点に気をつけながら、さらに製品の品質を高めることに注力していきたいと思っています。

